**課題文⑥　5年生以上**

**병아리**

ひよこ

병아리가 연못 옆에서 울고 있었습니다.

거기에 집오리 새끼가 찾아왔습니다.

“왜, 그러니?”

“건너편에 가고 싶어.”

“나처럼 해 봐.”

집오리 새끼는 헤엄쳐 보였습니다.

“하지만 난 헤엄칠 수 없는 걸.”하고

병아리는 말했습니다.

꿀벌이 날아왔습니다.

“나를 따라 오렴.”

꿀벌은 연못 위를

붕하고 날아 보였습니다.

“그런 것은 못 해.”

병아리는 또 울기 시작했습니다.

이번에는 토끼가 왔습니다.

“보렴, 이렇게 건너뛰는 거란다.”

토끼는 깡충깡충

뛰어넘어 보였습니다.

“나는 그렇게 뛸 수 없는 걸.”

그 때 연못 건너편에

병아리의 엄마가 왔습니다.

병아리는 큰 소리로,

“엄마, 어떻게 하면 거기로 갈 수 있어요?”

하고 물었습니다.

“연못가를 걸어 오렴.” 하고

엄마가 말했습니다.

“난 또 뭐라구. 그거라면 나도 할 수 있어.”

병아리는 연못가를 걸어서

엄마가 있는 곳으로 갔습니다.

ひよこが、他のそばで泣いていました。

そこへ、あひるの子がやって来ました。

「どうしたの。」

「向こうへ行きたいんだよ。」

「わたしのようにしてごらん。」

あひるの子は、氷いでみせました。

「だって、ぼく泳げないんだよ。」と、

ひよこは言いました。

みつばちが飛んできました。

「ぼくについておいで。」

みつばちは、池の上を、

ぶうんと飛んでみせました。

「そんなことできないよ。」

ひよこは、また泣きだしました。

今度は、うさぎが来ました。

「見てごらん。こうして飛び越すんだよ。」うさぎは、ぴょんぴょんと

飛び越えてみました。

「ぼくは、そんなに跳べないよ。」

その時、池の向こうに、

ひよこのお母さんが来ました。

ひよこは、大きな声で、

「お母さん、どうしたらそこへ行けるの。」と聞きました。

「池のまわりを歩いておいで。」と、

お母さんが言いました。

「なあんだ。それなら、ぼくだってできる。」

ひよこは、池のまわりを歩いて、

お母さんのところへ行きました。